

子預け祈願 - 子供の無事な成長を願う

子預け祈願とは、子供を15歳まで鬼子母神さまにお預けし、お守りとわらじをいただき、大切なお子さまの無事な成長を祈願するものです。

お預かりしたお子様の名前を鬼子母神さまの御宝前に貼り出して、毎月陀羅尼講の折に、お子さまの健やかな成長、そして病気や事故、非行・暴力などの災いを除き、お護りいただくご祈念をいたします。

子預け祈願 1年間 1名 5000円 お守り授与



五段守り

もろもろの障害から身を護っていただけます。



わらじ

幼い子供にとっては親こそが最大の環境であり、親の生き方がそのまま子供に反映します。我が子への過剰な期待が子供の自主性を奪うこともあり、子供の成長を止めてしまいます。また、子供の言いなりになって、ただ歓心を買っているだけのようになり、子供に心を奪われてしまうと、親の使命を果たすことができず、母親も向上しないばかりか、夫にも影響を与えてしまいます。



幼児教育を、昔は躰(しつけ)と言いました。躰によって子供は、社会生活の中で、「身」を「美」しく保つことができるのです。子育てをする親こそ仏さまの教えに触れて、溺愛や育児放棄という子供を取って食らう鬼神とならぬよう、注意しなければならぬと思うのです。

母親として、お子さまの大切な時期に、ゆとりある子育ての為にも、親子ともども信じる心を持って、鬼子母神さまに護り育てていただきましょう。

鬼子母神さまについて

鬼子母神はもともとインドの神様で、1万の鬼子(5百、1千ともいわれる)の母です。王舎城の町に来ては幼児を食い殺すという邪神でありました。困った町の人々は、お釈迦さまに救いを求めました。お釈迦さまは、神通力によって鬼子母神の1子を隠してしまいました。

そして、「お前は万子があるのに1子を失っても嘆き悲しんでいる。ところが世間の人々の子は1子、あるいは数子であるのに、その子をお前は食い殺している」と、鬼子母神の悪行を厳しく誡めました。

鬼子母神は自らの罪を悟り、生涯人の命を奪わないことを誓い、お釈迦さまに帰依しました。鬼子母神は邪神から仏法を守る善神となり、子授け・安産・子育て等の神として祀られるようになりました。



鬼子母神さま